

## 「火映現象の強弱」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

6月中旬に2度の小規模な噴火を起こした。今のところ何の被害もなく、平穏な状態が続いている。噴火後、群馬県西部は非常に天気が悪い日が続き、昼も夜も、山麓から浅間山の山頂付近を望むことは、ほとんどできなかった。しかし、わずかな晴れ間から、微弱的な火映現象を観測した。



「浅間山噴火後の火映現象」

2015, -6, 29 02:10 北軽井沢 C. Tanaka

上の写真では真っ赤に見えるが、これは長時間露光(約 30 秒)のためで、その証拠に、恒星が流れて写っている。この程度の強さの火映だと、肉眼での観望は難しい。しかし、弱いといえども、火映現象が観測されるということは、火口底が依然高温を保っているということの、重要な証拠となる。



「弱まった火映」 2015, -7, -7 噴気の根の部分のわずかに赤い。極めて微弱で、肉眼では見えない。

しかし、2004年の噴火前後には、明らかに肉眼でも見える、非常に明るい火映が連日のように出現していた。昼よりも夜の山麓のほうが「火山ファン」で賑わっていた。



「非常に明るい火映」 2004年 嬬恋村浅間園

恒星がほとんど動かないほどの短時間露光でも、これだけ写った。肉眼でも真っ赤に見えた。山頂からわずか4kmだったので、火山の息吹(鳴動)も聞こえた。



「上空の噴気をも照らす火映」 2004年 北軽井沢

下の写真は、恐らく火映が最も強かった時期に撮影したものである。露光時間はわずかに0.5秒。連続で何百枚も撮影できたので、それをつなげて動画を作れたほどである。私はこの光景を実際に見て、モーゼが十戒を授かった、シナイ山を思い出した。浅間山は今でも一級の活火山・・・「火の山」なのだ。